# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

# 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

# ≪大学≫

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### Ⅰ.評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである

平和口音(	シート)の自己息快・評価項目・安系と担当部向は次のとわりである。
対象部局	総合支援センター(学生活動支援機構)
大項目	0 理念·目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化
	実績や資源からみた理念・目的の適切性
	個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性
	社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

## Ⅱ. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。 進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で 目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

A: 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。

B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。

C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。

D: 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2011年度に設定した「目標」	2011年度に設定した「目標」 左記目標の「指標」		進捗状況(達成度)評価				
2011年度に設定した「日標」	一		2009	2010	2011	2012	2013
1. 「発達障がいのある学生」に対する修学支援(授業保障)と自立支援を行なう支援プログラムを策定する。	プログラムの策定状況 評価基準: A→修学支援、自立支援の両プログラムを策定 B→どちらか一方を策定 C→評価基準なしD→両方とも未策定	$\Box$			В	В	Α
2. 「聴覚障がいのある学生を支援するための遠隔情報保障システムを新しい学生支援メニューとして導入する。	遠隔情報保障システムの年間運用 回数 評価基準: A→5回以上 B→3~4回 C→1~2回 D→0回	$\Box$			С	В	В
3. 「こころ」や「身体」に困難を抱える学生を支援することについての理解・啓発を促進させる教職員向けプログラムを実施する。	啓発プログラムの実施回数 評価基準: A→2回以上 B→1回 C→評価基準なし D→0回				Α	Α	Α

2012年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」		2009	2010	2011	2012	2013
	$\rightarrow$	$\Box$	$\overline{}$				
	$\rightarrow$	$\qquad \qquad \Box \\ \rangle$					

### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

		した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。 
Chack: 総果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か、課題・改善点は何か 様字支援においては、発達障害のある学生・人一人関リが取るされか。個別の支援メニューを準備し支援にあたることに り、ほぼ子を当り機能・単位加降を通知できている。また。SSTコワブラムに参加した生の存储では、必要なスキルをほ 身につけることができている。課題としては、①発達障害のある产生の政労移行支援機の検討実施 ②発表障害と支援 関する知識や技能を身に着けた契約職員に雇用別限があるため、SSTプロブラムが今後、継続できなくなる恐れもあり、月 用形態の見度しが必要である。 Action・今後どうするのか、伸長策、改善業は何か 2013年に関する学型を対しては、「クラインスキル・トレーンング・事具体が支援を関係してはない。大学においては、「今週の問題・ 書で大学で大学へから変更しへ参担しければからない。今後は精神障害学生支援とも変担の対象に含まれることになり、発達 書学生支援と合わせて、LSEパラインスキル・トレー・エング・事具体が支援を制限・たいければからない。また。対応を迫られている発生を支援、大学の対象に含まれることになり、発達 書で生支援と合わせて、LSEパラインスキル・トレー・エング・事具体が支援を制限・たいければからない。また。また、対応を迫られている発生と支援、特殊障害学生支援、指称情害学生支援、特殊情害学生支援、特殊情害学生支援、大学を関係している。また、大学を進入・精神障害学生支援について後期部中期計画で2013年9月の大学集中事に体験整備の従業を行っている。 その他  Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできた。 道際情報保護を行うためにはバワコン、ハブ等の機器の事業値やインターネット、電話等の連信の主義が対かること。たい、大学主促人機能の蓄強のとなったが、表がしている。またでは、大学主催人機能問請求強をとせき等のより、一つ、これにおけ取り組んできた。これで、表述では、大学主権人機能問請求強とも等等のより、大学のより、大学のより、大学のより、大学のより、大学のより、大学のより、大学のより、大学のより、大学のより、大学のより、大学のより、大学のより、大学のより、大学のより、大学のより、大学のより、大学のより、大学のより、大学の表述を持ているとして、「多様に関連を抱てる学をは、大学をは、大学をは、大学をは、大学をに関係を表しまっている。表といった。成内の支援に受か、大学のより、大学をは、大学のより、大学のより、大学のより、大学をは、大学のより、大学をは、大学のに、大学をは、大学のに、大学をは、大学のとは、大学をは、大学をは、大学をは、大学をは、大学の活動が表とされている。大学をは、大学のより、大学をは、大学の活動が表がより、大学のより、大学をは、大学をない、大学をは、大学をは、大学のより、大学をは、大学のよりに、大学をは、大学をは、大学のよりに、大学をは、大学のに関係を表しい、大学をは、大学をは、大学のに関係を表しい、大学のよりに関係を表しまれている。大学をは、大学のよりに関係を表しまれている。大学をは、大学のよりに対しまれている。大学のよりに対しまれている。大学のよりに対しまれている。大学のよりに対しまれている。大学のよりに対しまれている。大学のよりに対しまれている。大学のは、大学のよりに対しまれている。大学のよりに対しまれている。大学のよりに対しまれている。大学のよりに対しまれている。大学のよりに対しまれている。大学のよりに対しまれている。大学のよりに対しまれている。大学のよりに対しまれている。大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、		Do:目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか発達障害のある学生に対する修学支援は、キャンパス自立支援室が中心になり、面談、ニーズ把握、スケジュール立案支援、配慮文の作成、実験サポート等の支援を行っている。また、自立支援としてSST(ソーシャル・スキル・トレーニング)プログラムを学生支援相談室のカウンセラー(臨床心理士)と協働で企画。2013年度は「マナー」「整理整頓術」「スケジュール管理術」等の講座を4回実施した
Action:今後どうするのか、伸長策、改善策は何か 2013年に国金で承認された「除電者差別解消法(通称)」が2016年に施行されるため、大学においては、「合理的配慮 基づがイドラインを栄生し必合しなければならない、今後は精神障害学生支援も支援の対象に含まれることになり、発達 害学生支援と合わせて、LST(ライフ・スキル・トレーニング)等具体的支援を明示しなければならない。また、発達専害のか学生に対する数が発行支援として、外部の支援機関とも進地所がないキャプ支援を育っては全策と、実施する。また、対応を迫られている発達障害学生支援、精神障害学生支援について後期新中期計画で2013年9月の大学集中審 に体制整備の提案を行っている。 その他  Do:目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできた。 遠隔情報保障を行うためにはパソコン、ハブ等の機響の準備やインターネット、電影等の通信環境を整備しなければならない、最初のステップとして、遠隔情報保障のためのパソコンの文字入力方式(IPTALK=連携入力)の一部導入を行い、試行でいる。試行としては、大学主催人権問題譲渡会やセミ等グループワークにおける情報保障を行うた。 Check: 結果はどうであったか。良かった点、効果が上がった点は何か、課題・改善点は何か アアムKによるパソコン入力は情報量を多く表示でき、従来のWORD入力方式より優れており有効である。しかし、情報機関の整備には費用が掛かること、IPTALKは連携入力のため訓練が必要である等の課題があるため、設行政階である。  Action:今後どうするのか、伸長策、改善策は何か 聴覚降がいのある学生の情報保障とした一年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたったが確保できなかったり、キャンパス外での授業情報保障の方法として備えておく必要があるため、IPTALKは連携して試する。一方で情報機器の整備や通信環境の整備を行っていべ。 その他  Do:目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたころも身体に困難を抱える学生の環境と啓発を目的に、学内から依頼のあった部局にカントで見たりまからで、まるのようによりであったが、会を管をしたので、具体的な学を対している。 その他  Check: 結果はどうであったか、良かった点・効果が上がった点は何か、課題・改善点は何か 学部のFD研修に違いに当たり、事前にアンケート調査を行い教職員からの開かなで関策を状況を把握したとで発起や質が必要あり、学部のの関係と対したいで生生対の関連をおりたいたが、機関・な参加者も多く、参加者からのアンケートには本学のの先進的な取り組みに対し高い評価を持ている。日本学生と支援機構との共催セミナーは参加者も多く、参加者からのアンケートには本学のの意味を指していての理解促進を全学部に浸透されていない学部を中心に働きかけをし、こころや身体に関連を抱える学生支援機構との共催セミナーも継続して実施し、本学が日本と支援機構のの中の手が表していない事が表した。ここことのでは、またで、表情を表しまれていないまれていないませないませないませないませないませないませないませないませないませないま	日極1	Check:結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 修学支援においては、発達障害のある学生一人一人困りが異なるため、個別の支援メニューを準備し支援にあたることにより、ほぼ予定通り履修、単位取得を達成できている。また、SSTプログラムに参加した学生の評価では、必要なスキルをほぼ身につけることができている。課題としては、①発達障害のある学生の就労移行支援策の検討実施 ②発達障害と支援に関する知識や技能を身に着けた契約職員に雇用期限があるため、SSTプログラムが今後、継続できなくなる恐れもあり、雇
Do:目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできた。 遠隔情報保障を行うためにはパシコン、ハブ等の機器の準備やインターネット、電話等の通信環境を整備しなければなられい。最初のステップとして、遠隔情報保障のためのパソコンの文字入力方式(PTALK)を連携人力の一部導入を行い、試行ている。試行としては、大学主催人権問題譲渡会やどま等グループワークにおける情報保障を行うた。  Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か PTALK(はよろパコン入力は情報量を多く表示でき、従来のWORD入力方式より優れており有効である。しかし、情報機器の整備には費用が掛かること、PTALK(は連携入力のため割線が必要である等の課題があるため、試行段階である。  Action:今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 難覚障がいのある学生の情報保障としてノートテイク制度を設けているが、今後、障がい学生の増加やノートテイクをする生が確保できなかったり、キャンパス外での授業情報保障の方法として備えておく必要があるため、IPTALK(は継続して試する。一方で情報機器の整備や通信環境の整備を行っていく。  その他  Do:目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたこころや身体に困難を抱える学生の理解と啓発を目的に、学内から依頼のあった部局にカウンセラーとコーディネータが出向き発題や説明の容券活動を3回(神学部、社会学部、経済学部)行った。また、日本学生主援機構との共催で本学を会はとして、「発達障害における移行期の支援」を一で、上述、通常の行うな、表に、表で観点の参加者を増やす方策が必要あり、学部との関整を締密にする。日本学生支援機構との共催をミナーは参加者も多く、参加者からのアンケートには本学の先進的な取り組みに対し高、評価を受けている。 Action:今後どうするのか、伸長策、改善策は何か 学内の啓発研修は、まだ啓発活動が実施されていない学部を中心に働きかけをし、こころや身体に困難を抱える学生支援についての理解促進を全学部に浸透させている。また日本学生支援機構との共催セミナーも継続して実施し、本学が日本生支援機構のネットワーク事業拠点校としての役割を果たす。		2013年に国会で承認された「障害者差別解消法(通称)」が2016年に施行されるため、大学においては、「合理的配慮」に基づくガイドラインを策定し公表しなければならない。今後は精神障害学生支援も支援の対象に含まれることになり、発達障害学生支援と合わせて、LST(ライフ・スキル・トレーニング)等具体的支援を明示しなければならない。また、発達障害のある学生に対する就労移行支援として、外部の支援機関とも連携し新たな「キャリア支援教育プログラム」を策定・実施する。また、対応を迫られている発達障害学生支援、精神障害学生支援について後期新中期計画で2013年9月の大学集中審議
遠隔情報保障を行うためにはパソコン、ハブ等の機器の準備やインターネット、電話等の通信環境を整備しなければなられ、最初のステップとして、遠隔情報保障のためのパソコンの文字入力方式(IPTALK=連携入力)の一部導入を行い、試行でいる。試行としては、大学主催人権問題講演会やゼミ等グループワークにおける情報保障を行った。  Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か IPTALKによるパソコン入力は情報量を多く表示でき、従来のWORD入力方式より優れており有効である。しかし、情報機器の整備には費用が掛かること、IPTALKは連携入力のため訓練が必要である等の課題があるため、試行段階である。  Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 聴覚魔がいのある学生の情報保障としてノートテイク制度を設けているが、今後、障がい学生の増加やノートテイクをする生が確保できなかったり、キャンパス外での授業情報保障の方法として備えておく必要があるため、IPTALKは継続して試する。一方で情報機器の整備や通信環境の整備を行っていく。  その他  Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたこころや身体に困難を抱える学生の理解と答発を目的に、学内から依頼のあった部局に力ウンセラーとコーディネータが出向き発題や説明の啓発活動を3回(神学部、社会学部、経済学部)行った。また、日本学生支援機構との共催で本学を会はとして、「発達障害における移行期の支援」をテーマに基訓講演とシンボジウムの構成で2013年度は2回実施した。  Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か、課題・改善点は何か学部のFO研修に臨むに当たり、事前にアンケート調をそ行い教職員から個別対応で困難な状況を把握した上で発題や質応答さおこなったので、具体的な学生対応の議論もありよい成果が得られた。ただ、教職員の参加者を増やす方策が必要あり、学部との調整を総密にする。日本学生支援機構との共催でミナーは参加者も多く、参加者からのアンケートには本学の先進的な取り組みに対し高い評価を受けている。  Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か学内の啓発研修は、まだ啓発活動が実施されていない学部を中心に働きかけをし、こころや身体に困難を抱える学生支援についての理解促進を全学部に浸透させている。また日本学生支援機構との共催でミナーも継続して実施し、本学が日本生支援機構のネットワーク事業拠点校としての役割を果たす。		
遠隔情報保障を行うためにはバソコン、ハブ等の機器の準備やインターネット、電話等の通信環境を整備しなければなられ い。最初のステップとして、遠隔情報保障のためのパソコンの文字スカ方式(IPTALK=連携入力)の一部導入を行い、試行 ている。試行としては、大学主催人権問題講演会やゼミ等グループワークにおける情報保障を行った。  Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か IPTALKによるパソコン入力は情報量を多く表示でき、従来のWORD入力方式より優れており有効である。しかし、情報機器 の整備には費用が掛かること、IPTALKは連携入力のため訓練が必要である等の課題があるため、試行段階である。  Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 聴覚輝がいのある学生の情報保障としてノートテイク制度を設けているが、今後、障がい学生の増加やノートテイクをする。 生が確保できなかったり、キャンパス外での授業情報保障の方法として備えておく必要があるため、IPTALKは継続して試する。一方で情報機器の整備や通信環境の整備を行っていく。  その他  Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできた こころや身体に因験を抱える学生の理解と啓発を目的に、学内から依頼のあった部局にカウンセラーとコーディネータが出向き発題や説明の啓発活動を3回(神学部、社会学部、経済学部)行った。また、日本学生支援機構との共催で本学を会はとして、「発達障害における移行期の支援」をテーマに基調構演とシンボジウムの構成で2013年度は2回実施した。  Check: 結果はどうであったか。良かった点、効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学部のFD研修に臨むに当たり、事前にアンケート調査を行い数職員から個別対応で困難な状況を把握した上で発題や質応答されてなったので、具体的な学生対応の講論もありよい成果が得られた。ただ、教職員の参加者を増やす方策が必要あり、学部との調整を報密にする。日本学生支援機構との共催セミナーは参加者も多く、参加者からのアンケートには本学の先進的な取り組みに対し高い評価を受けている。  Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学内の啓発研修は、まだ啓発活動が実施されていない学部を中心に働きかけをし、こころや身体に困難を抱える学生支援についての理解促進を全学的に浸透させている。また日本学生支援機構との共催セミナーも継続して実施し、本学が日本生支援機構のネットワーク事業拠点核としての役割を果たす。		Do:日標を達成するために、日標を設定した任度以際、どのようたことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか
IPTALKによるパソコン入力は情報量を多く表示でき、従来のWORD入力方式より優れており有効である。しかし、情報機器の整備には費用が掛かること、IPTALKは連携入力のため訓練が必要である等の課題があるため、試行段階である。  Action:今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 聴覚障がいのある学生の情報保障としてノートテイク制度を設けているが、今後、障がい学生の増加やノートテイクをする。 生が確保できなかったり、キャンパス外での授業情報保障の方法として備えておく必要があるため、IPTALKは継続して試する。一方で情報機器の整備や通信環境の整備を行っていく。  その他  Do:目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたこころや身体に困難を抱える学生の理解と登発を目的に、学内から依頼のあった。都た、日本にカウンセラーとコーディネータが吐向き発題や説明の等を活動を3回(神学部、社会学部、経済学部)行った。また、日本生生支援機構との共催で本学会立として、「発達障害における移行期の支援」をテーマに基調講演とシンポジウムの構成で2013年度は2回実施した。  Check:結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か学部のFD研修に臨むに当たり、事前にアンケート調査を行い教職員から個別対応で困難な状況を把握した上で発題や質が答されこなったので、具体的な学生対応の議論もありよい成果が得られた。ただ、教職員の参加者を増やす方策が必要あり、学部との調整を綿密にする。日本学生支援機構との共催セミナーは参加者も多く、参加者からのアンケートには本学の先進的な取り組みに対し高い評価を受けている。  Action:今後どうするのか。伸長策、改善策は何か学内の啓発が降は、まだ啓発活動が実施されていない学部を中心に働きかけをし、こころや身体に困難を抱える学生支援について理解促進を全学部に浸透させていく。また日本学生支援機構との共催セミナーも継続して実施し、本学が日本生支援機構のネットワーク事業拠点校としての役割を果たす。		遠隔情報保障を行うためにはパソコン、ハブ等の機器の準備やインターネット、電話等の通信環境を整備しなければならない。最初のステップとして、遠隔情報保障のためのパソコンの文字入力方式(IPTALK=連携入力)の一部導入を行い、試行し
Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 聴覚障がいのある学生の情報保障としてノートテイク制度を設けているが、今後、障がい学生の増加やノートテイクをする・生が確保できなかったり、キャンパス外での授業情報保障の方法として備えておく必要があるため、IPTALKは継続して試する。一方で情報機器の整備や通信環境の整備を行っていく。  その他  Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたこころや身体に困難を抱える学生の理解と啓発を目的に、学内から依頼のあった部局にカウンセラーとコーディネータが出向き発題や説明の啓発活動を3回(神学部、社会学部、経済学部)行った。また、日本学生支援機構との共催で本学を会せとして、「発達障害における移行期の支援」をテーマに基調講演とシンポジウムの構成で2013年度は2回実施した。  Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か学部のFD研修に臨むに当たり、事前にアンケート調査を行い教職員から個別対応で困難な状況を把握した上で発題や質応答をおこなったので、具体的な学生対応の議論もありよい成果が得られた。ただ、教職員の参加者を増やす方策が必要あり、学部との調整を綿密にする。日本学生支援機構との共催セミナーは参加者も多く、参加者からのアンケートには本学の先進的な取り組みに対し高い評価を受けている。  Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か学内の啓発研修は、まだ啓発活動が実施されていない学部を中心に働きかけをし、こころや身体に困難を抱える学生支援でついての理解促進を全学部に浸透させていく。また日本学生支援機構との共催セミナーも継続して実施し、本学が日本生支援機構のネットワーク事業拠点校としての役割を果たす。		IPTALKによるパソコン入力は情報量を多く表示でき、従来のWORD入力方式より優れており有効である。しかし、情報機器
Do:目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたこころや身体に困難を抱える学生の理解と啓発を目的に、学内から依頼のあった部局にカウンセラーとコーディネータが出向き発題や説明の啓発活動を3回(神学部、社会学部、経済学部)行った。また、日本学生支援機構との共催で本学を会せとして、「発達障害における移行期の支援」をテーマに基調講演とシンポジウムの構成で2013年度は2回実施した。  Check:結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か学部のFD研修に臨むに当たり、事前にアンケート調査を行い教職員から個別対応で困難な状況を把握した上で発題や質応答をおこなったので、具体的な学生対応の議論もありよい成果が得られた。ただ、教職員の参加者を増やす方策が必要あり、学部との調整を綿密にする。日本学生支援機構との共催セミナーは参加者も多く、参加者からのアンケートには本学の先進的な取り組みに対し高い評価を受けている。  Action:今後どうするのか。伸長策、改善策は何か学内の啓発研修は、まだ啓発活動が実施されていない学部を中心に働きかけをし、こころや身体に困難を抱える学生支援についての理解促進を全学部に浸透させていく。また日本学生支援機構との共催セミナーも継続して実施し、本学が日本生支援機構のネットワーク事業拠点校としての役割を果たす。	目標2	聴覚障がいのある学生の情報保障としてノートテイク制度を設けているが、今後、障がい学生の増加やノートテイクをする学生が確保できなかったり、キャンパス外での授業情報保障の方法として備えておく必要があるため、IPTALKは継続して試行
こころや身体に困難を抱える学生の理解と啓発を目的に、学内から依頼のあった部局にカウンセラーとコーディネータが出向き発題や説明の啓発活動を3回(神学部、社会学部、経済学部)行った。また、日本学生支援機構との共催で本学を会せとして、「発達障害における移行期の支援」をテーマに基調講演とシンポジウムの構成で2013年度は2回実施した。  Check:結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か学部のFD研修に臨むに当たり、事前にアンケート調査を行い教職員から個別対応で困難な状況を把握した上で発題や質応答をおこなったので、具体的な学生対応の議論もありよい成果が得られた。ただ、教職員の参加者を増やす方策が必要あり、学部との調整を綿密にする。日本学生支援機構との共催セミナーは参加者も多く、参加者からのアンケートには本学の先進的な取り組みに対し高い評価を受けている。  Action:今後どうするのか。伸長策、改善策は何か学内の啓発研修は、まだ啓発活動が実施されていない学部を中心に働きかけをし、こころや身体に困難を抱える学生支援についての理解促進を全学部に浸透させていく。また日本学生支援機構との共催セミナーも継続して実施し、本学が日本生支援機構のネットワーク事業拠点校としての役割を果たす。		その他
向き発題や説明の啓発活動を3回(神学部、社会学部、経済学部)行った。また、日本学生支援機構との共催で本学を会せとして、「発達障害における移行期の支援」をテーマに基調講演とシンポジウムの構成で2013年度は2回実施した。  Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か学部のFD研修に臨むに当たり、事前にアンケート調査を行い教職員から個別対応で困難な状況を把握した上で発題や質応答をおこなったので、具体的な学生対応の議論もありよい成果が得られた。ただ、教職員の参加者を増やす方策が必要あり、学部との調整を綿密にする。日本学生支援機構との共催セミナーは参加者も多く、参加者からのアンケートには本学の先進的な取り組みに対し高い評価を受けている。  Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か学内の啓発研修は、まだ啓発活動が実施されていない学部を中心に働きかけをし、こころや身体に困難を抱える学生支援についての理解促進を全学部に浸透させていく。また日本学生支援機構との共催セミナーも継続して実施し、本学が日本生支援機構のネットワーク事業拠点校としての役割を果たす。		Do:目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできた
学部のFD研修に臨むに当たり、事前にアンケート調査を行い教職員から個別対応で困難な状況を把握した上で発題や質応答をおこなったので、具体的な学生対応の議論もありよい成果が得られた。ただ、教職員の参加者を増やす方策が必要あり、学部との調整を綿密にする。日本学生支援機構との共催セミナーは参加者も多く、参加者からのアンケートには本学の先進的な取り組みに対し高い評価を受けている。  Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か学内の啓発研修は、まだ啓発活動が実施されていない学部を中心に働きかけをし、こころや身体に困難を抱える学生支援についての理解促進を全学部に浸透させていく。また日本学生支援機構との共催セミナーも継続して実施し、本学が日本生支援機構のネットワーク事業拠点校としての役割を果たす。		こころや身体に困難を抱える学生の理解と啓発を目的に、学内から依頼のあった部局にカウンセラーとコーディネータが出向き発題や説明の啓発活動を3回(神学部、社会学部、経済学部)行った。また、日本学生支援機構との共催で本学を会場として、「発達障害における移行期の支援」をテーマに基調講演とシンポジウムの構成で2013年度は2回実施した。
応答をおこなったので、具体的な学生対応の議論もありよい成果が得られた。ただ、教職員の参加者を増やす方策が必要あり、学部との調整を綿密にする。日本学生支援機構との共催セミナーは参加者も多く、参加者からのアンケートには本学の先進的な取り組みに対し高い評価を受けている。  Action:今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学内の啓発研修は、まだ啓発活動が実施されていない学部を中心に働きかけをし、こころや身体に困難を抱える学生支援についての理解促進を全学部に浸透させていく。また日本学生支援機構との共催セミナーも継続して実施し、本学が日本生支援機構のネットワーク事業拠点校としての役割を果たす。		
学内の啓発研修は、まだ啓発活動が実施されていない学部を中心に働きかけをし、こころや身体に困難を抱える学生支援についての理解促進を全学部に浸透させていく。また日本学生支援機構との共催セミナーも継続して実施し、本学が日本生支援機構のネットワーク事業拠点校としての役割を果たす。	目標3 🔼	学部のFD研修に臨むに当たり、事前にアンケート調査を行い教職員から個別対応で困難な状況を把握した上で発題や質疑応答をおこなったので、具体的な学生対応の議論もありよい成果が得られた。ただ、教職員の参加者を増やす方策が必要であり、学部との調整を綿密にする。日本学生支援機構との共催セミナーは参加者も多く、参加者からのアンケートには本学の先進的な取り組みに対し高い評価を受けている。
についての理解促進を全学部に浸透させていく。また日本学生支援機構との共催セミナーも継続して実施し、本学が日本生支援機構のネットワーク事業拠点校としての役割を果たす。		Action: 今後どうするのか。 伸長策、改善策は何か
その他		学内の啓発研修は、まだ啓発活動が実施されていない学部を中心に働きかけをし、こころや身体に困難を抱える学生支援についての理解促進を全学部に浸透させていく。また日本学生支援機構との共催セミナーも継続して実施し、本学が日本学生支援機構のネットワーク事業拠点校としての役割を果たす。
		その他
·····································	備考	